

市指定文化財<無形民俗>

指定日 平成2年9月1日

ぎょくしやうじ
玉祥寺このみやおどり

所在地 菊池市玉祥寺



20代菊池^{ためくに}為邦の頃(1446~88年)、この地の守護神として建立されたといわれる玉祥寺の春日神社の境内には、南向きと西向きの鳥居、文政6年(1823)の刻銘がある灯籠、それに神殿新築の記念碑、^{たまがき}玉垣、^{くす}樟の巨木などがある。

「このみやおどり」とは、この神社の例祭前夜の2月27日に、同神社の拝殿で行われる踊りのことで、「このみや」の意味や由来、起源などについては定かではないが、今からおよそ560年前から伝わる神事といわれている。踊りは、どてらに編み笠、腰には^{ずだぶくろ}頭陀袋、背中には杵を背負った奇妙な格好の御大将2人が見守る前で、姉さんかぶりにたすきがけの女装の男衆2人が、太鼓をたたきながら^{きんがしら}讚頭の歌に合わせて踊る単調かつ素朴なものである。この踊りの後は地区民の安全と五穀豊穰を祈って手締めをし、親睦の^{なおり}直会となる。